



## ◆当面する重点作業

1. 晩腐病・べと病・さび病の発生が見られる園では、二番果や取り残した病果、巻きヅルの除去を行う。  
また、落葉の処理を必ず行い、園内の菌密度を下げる。
2. 防鳥網(防雀網)をかけている園では必ず積雪前までに取りはずす。
3. 棚が傾いていたり、ゆるんでいる園では補強・補修を行う。
4. 種あり巨峰の元肥を施用し、土壌の深耕(タコツボ条溝法)や有機質の施用を徹底する。
5. 密植・強剪定・徒長・品質不良園の間伐を秋季(収穫直後)に実施する。

## ◆特別薬剤散布について

1. 散布時期：収穫後

2. 調 合 量：水100ℓ当り ※混用順に記載 散布日 月 日

| 農薬名                            | 使用量  | 対象病虫害         | 収穫前 |
|--------------------------------|------|---------------|-----|
| i c ボルドー66D                    | 2kg  | べと病・さび病・(褐斑病) | —   |
| 固着性展着剤K. Kステッカー<br>(必ず最後に調合する) | 33ml | —             | —   |

3. 散 布 量：10a当り ⇒SS・動噴＝350ℓ

4. 留意事項

- ① i c ボルドー66Dに代えて4-4式ボルドー液(生石灰400g、⑩硫酸銅400g)又は、ムッシュボルドーDF500倍(水100ℓ当り200g)を使用しても良い。
- ② 固着性展着剤K. Kステッカーに代えて、固着性展着剤アビオンE1,500倍(水100ℓ当り66ml)を使用してもよい。ただし、最初に加用する。

## ◆種あり巨峰の基肥施肥について

1. 施用基準(10a当り)

| 施用時期   | 資材名              | 施用量 | 成分量(kg)                  |
|--------|------------------|-----|--------------------------|
| 10月中下旬 | グリーン長野果樹専用有機入り72 | 2袋  | 窒素3.2・リン酸0.8・カリ0.4 苦土0.6 |
|        | 果樹の力             | 2袋  | 苦土13.6                   |

2. 注意事項

- 1) 5年生程度までの若木は、グリーン長野果樹専用有機入り72の施用を控える。
- 2) 特に樹勢が強い樹は、グリーン長野果樹専用有機入り72を1～0.5袋程度とする。
- 3) 弱樹勢樹は、グリーン長野果樹専用有機入り72を3袋とする。
- 4) 堆肥等を施用する場合は成分量を計算し、グリーン長野果樹専用有機入り72を減らす。
- 5) 乾燥が続く場合はかん水(10～20mm)や降雨後の施用が好ましい。

## ◆落葉の処理について

落葉を放置しておくと、べと病等の病原菌の越冬源になるので処理を徹底する。

なお、落葉前に深さ30～40cmの溝を樹間に平行に2～3本掘り落葉を集めると効率良く処理できる

また、埋める際はマルチのワラや有機物等土壌改良材を投入し土作りを兼ねることが大切である。

特に近年のぶどう樹の樹勢衰弱要因の一つに土壌の硬化が考えられるので改善する。